

存在感を増すアジア諸国

アセアンの一員として成長を期待

アジア特集

中国の四川大地震やミャンマーのサイクロン上陸などの大災害が発生したが、これを機にアジア諸国の結束は一段と強まる傾向にある。

アジアは世界の人口の5割を超え、世界経済の原動力となっている。ここ数年、世界の中のアジアの地位は飛躍的に向上した。21世紀はアジアの時代と言っても過言ではあるまい。中でも主役は中国、インドに加えアセアン(東南アジア諸国連合)10カ国などの

周辺国の潜在的成長力に負うところ大である。折から東京で第14回国際交流会議「アジアの未来」が開催された。地球規模の課題に向けた連携強化策を巡って議論を深めた。政府はアセアンの経済関係を強化するなど積極的な協力を提案している。このような中でアジアで活躍する日本企業も数多い。今後のアジア諸国の成長ぶりと日本企業の活躍に期待したい。

代表的な新興国であるBRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)4カ国に続くポストBRICsとしてアジアではベトナムやタイ、インドネシアなどの将来性や中長期成長力に富む国に心が高まっている。

ベトナムは、アセアン10カ国の一員として自由化による経済の拡大が見込まれる。また06年のWTO(世界貿易機関)加盟を果たしたことで着々と国際化への道を歩みつつある。海外からの投資は順調に拡大している。ベトナムの正式国名はベトナム社会主義共和国である。人口は8400万人余を擁する。

政治的安定、良好な治安には定評があり、政情不安や宗教対立の危険性が小さいことが魅力である。また、安く豊富な労働力、国営企業の民営化、

規制分野の撤廃などを見込んだ投資資金の流入が続いている。アジアではトップクラスの経済成長率を誇る。1人当たりのGDPは800ドルを超え、年率成長率は中国に次ぎ8%台の高成長が続いていた。ベトナム人は知的水準が高く、本年は経済の減速傾向の中で8%から7%に下方修正をした。

地理的にも好条件を備えており、中国に隣接している。また、南北に長い地形が東南アジアと日本、中国、韓国など北東アジアの中継点となっている点が注目される。

最近では「中国への一極集中」を回避する点でもベトナム投資が加速化している。中国、韓国、台湾などからベトナム、タイ、フィリピンなどアセアン諸国へ生産拠点をシフトさせる動きも見られる。

ベトナムは、南と北に2つの大きなアルタ地帯を有する農業国でもあり、食糧自給率は穀物生産量ベースで160%に達する。天然資源にも恵まれており、原油の輸出国でもあり石炭の算出量も大きい。ベトナム人は知的水準の高いことでも知られている。成人識字率は93.4%と高い。低コストで高品質のソフトウェア開発などではインドに比べてコストは半額程度に過ぎない。先進国や中国などで高齢化が深刻な問題となっている中で、人口の半分が20歳以下であり、長期に豊富な労働力を提供することが可能である。ベトナムは、世界で最も若い証券取引市場であり、2000年にホーチミン証券取引所がオープン、04年にはハノイ証券取引所がオープンした。取引所がオープンした。08年1月現在、両取引所で上場銘柄は約280銘柄、時価総額は約3兆円であったが、その後の値下がりですべて1.6兆円と6割弱の水準となった。この下落の最大の原因は、欧米諸国や日本と違いサブプライム問題ではなく、ベトナム政府の金融問題のミスにある。また、今回の株価下落の中、外国人の投資は買い越しになっている。主要な売り手はベトナム人投資家である。それでは外国人が更に買い越せば株価は下落しないわけだが、ベトナムでは外国人の持ち株比率は49%に抑えられており、優良企業の株は既に外国人の株が満杯の状態が続いている。

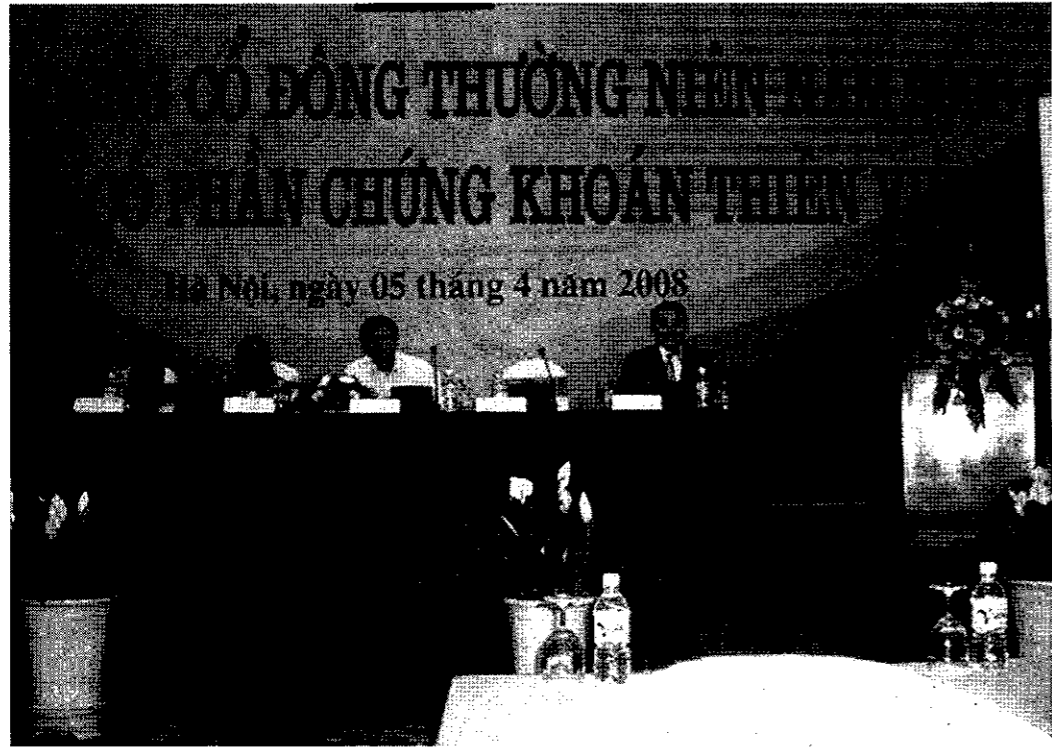
株価上昇のためにはベトナム経済成長の長期的展望の早期策定、政府金融政策の転換、外国人持ち株比率の変更等規制緩和、情報公開の徹底等の要因が不可欠と思われる。

株プルーフ・チップ・コンサルティンク

代表取締役 大木健司
株プルーフ・チップ・コンサルティンクは、インキュベーション(優良企業を育て上げる)、PRに強みを持つ投資コンサルティンク会社。

08年の投資のテーマはリサーチ(優良企業を探す)からインキュベーション(優良企業を育て上げる)に重点が移っている。当社はこのテーマに合ったインキュベーションに強みを持った投資コンサルティンク会社である。

▼テント証券株主総会
写真提供・プルーフ・チップ・コンサルティンク社



世界で最も若い証券取引市場
ポストBRICsのホープ、ベトナム